

北海道浮魚ニュース

令和 7 (2025) 年度 11 号

2025 年 9 月 1 日

道総研 釧路水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎道東太平洋イカ類南下期資源調査結果

漁獲調査でスルメイカの来遊が認められたが分布密度は低かった

調査期間：2025 年 8 月 19～24 日

調査海域：道東太平洋沿岸

調査船：北辰丸（255 トン、イカ釣機 5 台装備）

調査方法：イカ釣機による 1 晩 2 地点の夜間釣獲調査、CTD による海洋観測

1. 水温環境（図 1）

図 1 に 2025 年及び 2024 年の調査海域における水温と漁獲調査結果を示しました。

2025 年の調査点 10 点の表面水温は 18.4～21.6℃（2024 年 8 調査点 15.0～21.8℃）、50m 深の水温は 3.9～13.2℃（2024 年 8 調査点 3.7～12.4℃）の範囲にありました。全体として、表面水温は 2024 年の同じ調査点より高い点が多く、海域による水温の差は 2024 年より小さくなっていました。50m 深の水温は、2024 年と同様に厚岸沖 St.7 以東で北上期の来遊の目安となる 10℃を下回り、海域による水温の差は 2024 年より大きい傾向がみられました。

なお、道総研水産研究本部では北海道周辺海域で 2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いた定期海洋観測を行い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下の URL で公開していますので、そちらも参照下さい。

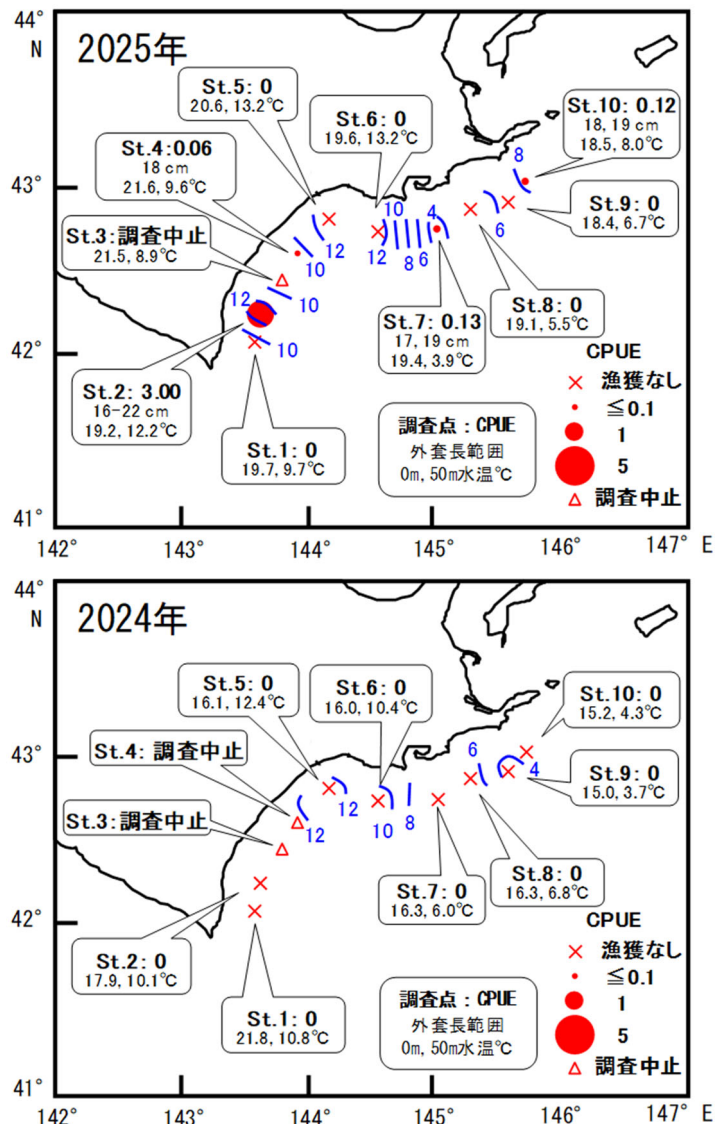


図1 2025年（上）と2024年（下）の漁獲調査結果と水温。
●は漁獲調査点を示し大きさはCPUE（イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）を表す。等温線は50m深の水温分布

2. 分布密度（図1、2）

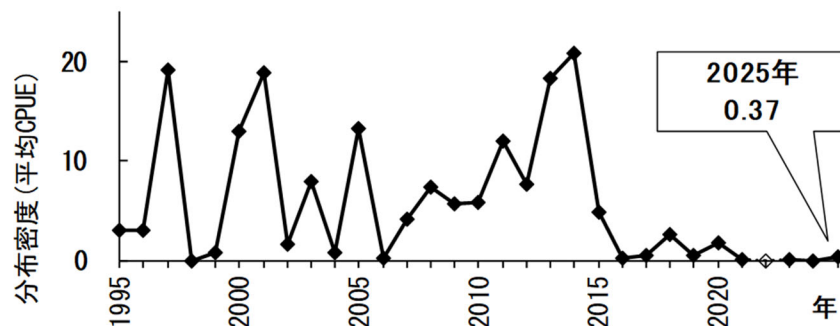


図2 8月道東太平洋調査におけるスルメイカ平均CPUEの経年変化。

2022年は調査船故障による調査打ち切りのため参考値

漁獲調査を実施した9調査点のうち4点で合計45尾のスルメイカの漁獲がみられました（図1）。このほか漁獲がなかった調査点のうち浜中沖 St. 8 及び昆布森沖 St. 6 でも調査中の目視観測によりスルメイカの群れが確認できました。分布密度の指標となる CPUE（イカ釣機1台1時間あたり漁獲尾数）が最も高かったのは広尾沖 St. 2（CPUE：3.00）でした。各調査点の CPUE の平均は 0.37 で 2024 年（漁獲なし）及び 2023 年（0.12）を上回りましたが、過去との比較では低い値に止まりました（図2）。以上の結果から、今回の調査ではこの海域へのスルメイカの来遊は確認できたものの、来遊水準は引き続き 2016 年以降の低い状態にあったと考えられます。

3. スルメイカの大きさ（図3）

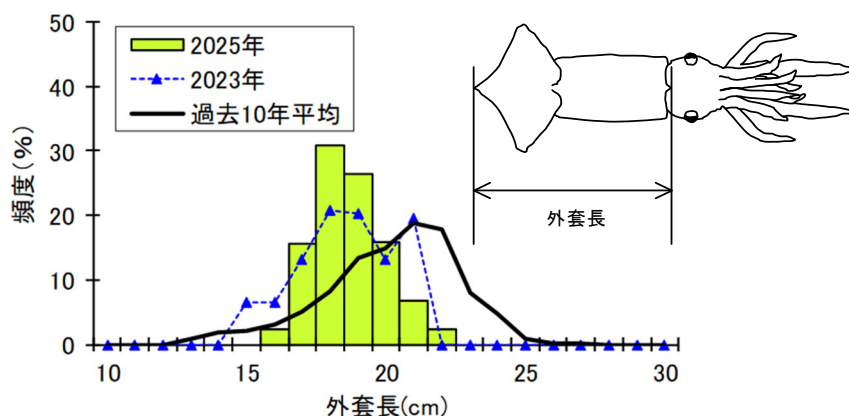


図3 8月道東太平洋調査におけるスルメイカの外套長組成。「過去10年平均」

は 2015～2024年の平均値。ただし2024年及び2022年は漁獲なし

全漁獲調査点のスルメイカの外套長（胴長）は 16～22cm（2024 年漁獲なし、2023 年 15～21cm）の範囲にありました（図1、図3）。海域全体の外套長のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は 18cm（2023 年 18 cm）にみられ、全体的な魚体サイズは過去 10 年（2015～2024 年）の平均に比べ小型でした（図3）。

4. アカイカ

本調査でのアカイカの漁獲は 6 年連続でみられませんでした。